平成22年度　新発田市遺跡出土品展

平成23年2月19日[土]～2月27日[日]／新発田市立図書館　坪川記念室

主催：新発田市教育委員会

ごあいさつ

新発田市は、日本海の海岸線から飯豊連峰の山頂まで、高低差のある様々な地形がみられます。この広い範囲から多くの遺跡が発見されており、その数は680ヶ所にものぼります。

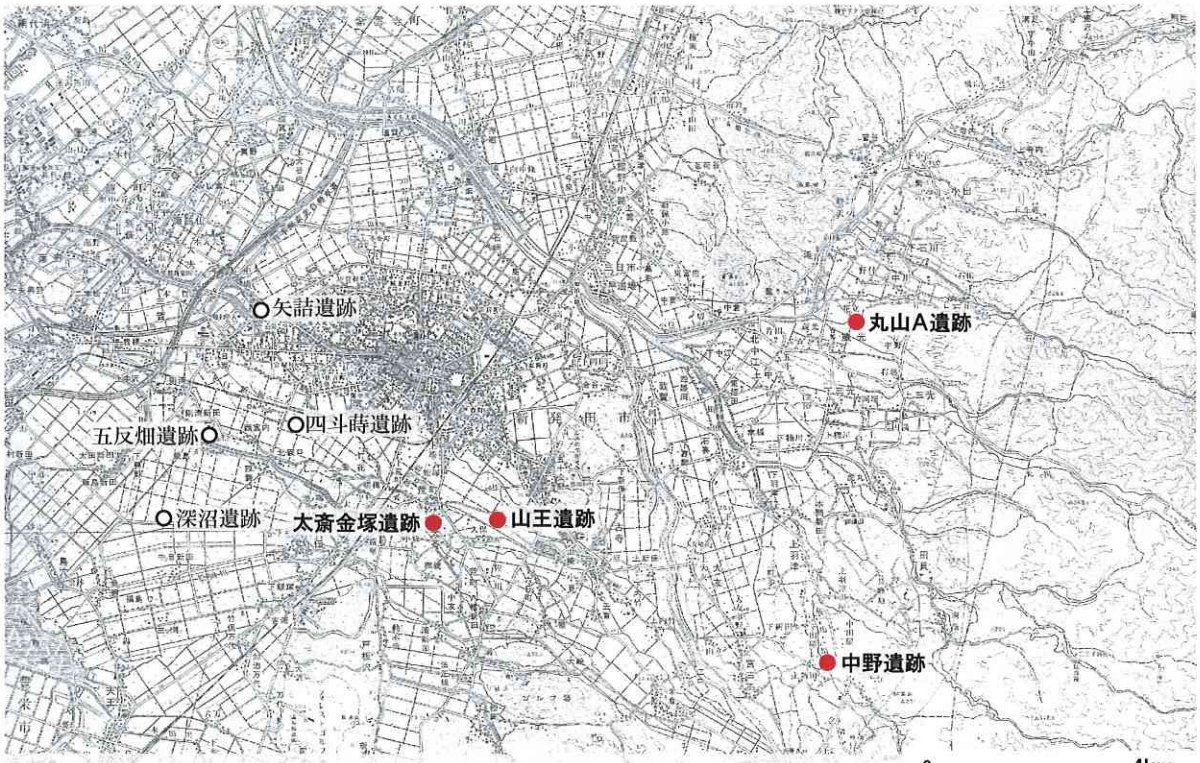
昭和42年以来実施している、開発事業に先立つ本格的な発掘調査は70ヵ所以上におよび、旧石器時代から江戸時代に至るさまざまな調査成果から、私たちの足元に埋もれていた新発田の歴史が徐々に明らかとなってきています。

このたび、新発田市教育委員会では、発掘調査の成果を広く市民のみなさまに公開するために、平成22年度に市内で発掘調査を行った中野遺跡・丸山A遺跡・山王遺跡の出土品を中心とした展示会を企画いたしました。限られた内容ではありますが、どうぞごゆっくりとご覧いただき、先人の足跡と悠久の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

■　平成22年度の遺跡発掘調査

【本発掘調査】 中野遺跡（板山）／丸山A遺跡（蔵光）／太斎金塚遺跡（太斎）／山王遺跡（五十公野）

【試掘・確認調査】 矢詰遺跡（奥山新保）／四斗蒔遺跡（弓越）／深沼遺跡（飯島）／五反畑遺跡（則清）



平成22年度に調査した主な遺跡　●：本発掘調査、○：試掘確認調査

■ 中野遺跡

所 在 地:新発田市板山字中野2608-2番地 ほか
調査原因:県営ほ場整備事業 加治川右岸地区
調査面積:1,023㎡(北区:460㎡ ,南区:563㎡)
調査期間:平成22年5月31日～8月12日

○遺跡の概要

中野遺跡は、縄文時代後期後半(今から約3,200年前)に営まれていた集落の跡で、昭和42年の市道改良工事で発見されました。出土した土器群は、形が良く残っており、特徴的な形と文様をもつことから、県内でこの時期を代表する資料です。遺跡は、板山川右岸の段丘に立地し、西側の板山川に向かって、また北側の下流方向へと、階段状に低くなっています。調査地の標高は、約60～62mです。なお、加治川までは、直線距離で1.5kmあります。

○発掘調査の概要

発掘調査は、県営ほ場整備事業に先立って、設計上やむなく削られる2箇所(北区・南区)で実施しました。両方とも小さな段丘ですが、過去の水田改良工事によって、広く削平されていました。

北区では、段丘のへりで縄文中期終末頃(約4,200年前)の住居の柱穴と3基の炉跡を検出しました。炉跡は、この時期の東北地方で一般的な「複式炉」と呼ばれる大きな炉で、火種(ひだね)を置く土器を埋め、さらに石を組んだ火を燃やす部分からなります。また西側の段丘下では、幅7mの川跡を検出し、縄文時代後期前半(約3,800年前)の遺物が多量に出土しました。

南区は、北方と西方へ向けて緩く傾斜していたと考えられます。火を焚いた跡の「焼土」が2箇所、立てた状態で埋められた「埋設土器」が4基ありましたが、埋設土器の上半分は水田で壊されていました。他に、土坑・ピットという「穴」が多数ありますが、何のために作られたのかははっきりしません。

わずかな調査範囲ながら、縄文後期中頃～晩期初め頃(約3,500～3,000年前)の土器片と石器が多く出土しました。特に、磨製石斧は、製作途中で割れた失敗品が約600点もあります。石斧製作用のハンマーである多面体敲石(たたきいし)は105点、磨いて仕上げる砥石(といし)が18点と、工具もそろっており、石くずも多く出土しています。これらのことから、この遺跡が磨製石斧を多量に生産していたことが分かり、それを物々交換用の商品として、さまざまなものを手に入れていたことが想像できます。

この遺跡からは、勾玉、垂飾りという穴のあけられたペンダントや、19点ものヒスイ(硬玉)が出土しています。糸魚川市でしか産出しない宝石のヒスイは、縄文時代も今と同じように貴重品でした。

○まとめ

中野遺跡は、これまでの水田改良工事によって、遺構の残り具合はよくありません。しかし、磨製石斧生産に係わる遺物が極めて多く、またヒスイや勾玉といった手に入りにくい高級な持ち物があるということは、この遺跡が裕福で、地域の中心となる集落であったことを物語っています。

縄文時代中期の複式炉(北区)

縄文時代後期の土坑とピット(南区)

■ 丸山A遺跡

所 在 地:新発田市蔵光字丸山 ほか
調査原因:県営ほ場整備(担い手育成型) 蔵光地区
調査面積:950㎡
調査期間:平成22年5月18日～10月6日

○遺跡の概要

本遺跡は、二王子岳の麓にある丸山(標高120m)西側の緩い斜面に位置し、畑地から水田にかけて約10,500㎡もの範囲に広がっています。以前から奈良・平安時代の土師器(※1)・須恵器(※2)が多数採集されており、当該時期の集落遺跡としては珍しく、平野部ではなく丘陵に立地すること、近隣に同時代の須恵器窯跡(ホーロク沢A・B窯跡)が発見されていることから、須恵器作りに関係する人々の生活の場と考えられて来ました。今回の調査により、これらが立証されるとともに、さらに土師器作りも行っていた村の跡であることが、明らかになりました。

○発掘調査の概要

調査では、工事により削平される部分のみ(遺跡面積の約1／10)を帯状に発掘しました。この中で、土師器を焼いた痕跡とみられる、底の真っ赤に焼け込んだ穴(土坑)が9基発見され、本遺跡が土師器の製作地と判明しました。また、2×3間で四方に廂を持つ大形建物1棟を含め、5棟の掘立柱建物と素掘りの井戸3基や、多量の土器がされた土坑を含めて土坑30基、溝2条などを検出し、集落跡であることも確認できました。

平箱約180箱分にも上る多量の土器類が出土しており、大半が8世紀中葉～9世紀初頭(奈良時代中頃～平安時代初め)の製品です。長胴甕・短胴甕・小甕などの土師器や土錘など土製品とともに、製作時の粘土屑が焼けたものも多く見つかっています。さらに、金属製品を模した黒色土器の短頸壺や高杯が出土し、単なるの生活地以上の内容を持つ遺跡である可能性も出てきました。

丸山A遺跡　土師器焼き痕跡

丸山A遺跡　土器大量廃棄土坑

また、須恵器は生産地でしか見られないような焼成不良・焼き歪みなどの失敗品が多数出土しています。

丸山A遺跡の営まれた8世紀当時は、伝統的な土師器の製作方法に須恵器生産の技術が導入されるようになる時期であり、以前から両者の生産に関連性のあることが指摘されてきました。今回の調査により、本地域では具体的に、同じ村に集う同じ人々が、土師器・須恵器の両生産に関わっていたことが確認されました。

※1　土師器(はじき):肌色でやや軟質の土器。弥生時代からの土器作りの伝統を引く素焼の土器で、600～800℃の低温で焼き上げる。

※2　須恵器(すえき):灰色の硬質な土器。朝鮮半島から製作方法の伝わってきた焼き物で、新潟県内では奈良時代に入ってから生産が始まる。ロクロを用いて形を作り、丘陵斜面に築いた登窯に詰めて1100℃以上の高温で焼き上げる。

■ 山王遺跡

所 在 地:新発田市五十公野字矢崎503－3番地 ほか
調査原因:市道 山王畑中線拡幅改良工事
調査期間:平成22年9月29日～12月13日
調査面積:720 ㎡

○遺跡の概要

山王遺跡は、五十公野山の南西方向、山王畑と呼ばれる微高地に位置します。畑の中央を東西に市道が通っており、この道路の拡幅工事にともなって平成4年から発掘調査行っています。今回の調査で、予定していた調査の全範囲が終了しました。

市道の予定地が対象のため、調査区は幅6m・延長120mの細長いかたちをしています。明治時代に作られた地籍図には、今回の対象地である市道の付近を、当時の道路がゆるく蛇行しながら東西方向へ延び、今回の調査区の東側で北に方向を変えている様子が描かれています。市道として整備される前にも、この部分に道が通っていたようです。

○発掘調査の概要

発掘調査の結果、溝・掘立柱建物跡・竪穴建物跡・井戸などが発見されました。

中でも、調査区の西端から東端に向けて幅が1.2～3mで深さ20cmの溝と、幅1～1.5mで深さ50cmの溝が、途中調査区の北側に外れる箇所があるものの、ほぼ全域で発見されました。二つの溝は部分的に交差しており、詳しく調べた結果、幅広の溝があとから掘られていることがわかりました。古い方の溝からは平安時代・鎌倉時代の遺物、新しい方の溝からは鎌倉・室町時代の遺物が出土しています。平成20年度に実施した東隣の調査区でも、これらの溝の続きを確認しており、10m程で調査区の北へ延びているのが分かっています。

溝に沿って掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡3棟、井戸2基が発見されました。竪穴建物跡は、1辺3m程の大きさで、地面を30cmくらい掘りくぼめ、茅や板で上屋をかけていたとみられます。上屋を支えるための柱穴を持つもの、持たないものがありました。また、井戸は2基発見されました。竪穴建物跡の一部を壊して掘られていた井戸は土の埋まり方を細かく観察した結果、壁が崩れないよう、四角い木組み枠を埋めて底の部分には円い曲物をすえていたようです。

竪穴建物跡(左)と井戸(右)

出土した遺物は、奈良・平安時代の土師器と須恵器、鎌倉・室町時代の土器・陶磁器類などがあります。土師器は地元産で素焼きの椀・甕類、須恵器は真木山や、蔵光、佐渡の窯で焼かれた灰色の杯・甕・瓶類があります。鎌倉・室町時代のものは、能登半島産の珠洲焼の甕・壺・擂鉢、中国から輸入された青磁・白磁の碗・皿類、地元産の土師器皿があります。また、県内で唯一の中世陶器産地である豊浦・笹神丘陵で作られた焼物も出土しています。北沢窯(豊浦地区本田山)の焼物は珠洲窯の製品に、狼沢窯(阿賀野市笹神地区真光寺山)の焼物は東海地方の常滑窯や、北陸地方の加賀窯の製品に似ています。

平成22年度 新発田市遺跡出土品展
展 示 解 説

発行日:平成23年2月19日
編集・発行:新発田市教育委員会
〒959-2323
新潟県新発田市乙次281番地2
電話 0254-22-9534